



あおもりの未来
技術でサポート

野菜研究所ニュース

No.24 2019.6

青森県産業技術センター 野菜研究所

< 掲載記事 >

- 新所長から挨拶
- ニンニクのイモグサレセンチュウ被害診断等研修会
- ニンニク優良種苗生産指導研修会
- ニンニク種苗ウイルス感染調査開始
- いろいろな機械を使っでの作業
- ナガイモ戦略推進協議会作業部会
- 平成31年度の人の動き

新所長から挨拶

この度、地方独立行政法人青森県産業技術センター野菜研究所長を拝命しました、菊池昌彦です。私の基本方針は、

「人間関係を大事にして、研究成果もあげる野菜研究所にしたい」ということでもあります。職場の仲間や関係機関、地域の人達や家族も含めた人間関係を大事にして、相手の気持ちになって、「人」に優しい職場にしたい、ということでもあります。無論研究所ですので、時代の課題に対応した、優れた品種の開発、優良種苗の安定供給、儲けにつながる栽培技術

の開発、安全で効果的な病害虫防除技術の開発、などの研究成果をあげることに、これが大前提であります。この基本方針は、新元号「令和」を発表した際に、安倍首相が話していた「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ意味を込めている」に少し似ていると感じました。こじつけかもしれませんが、令和元年のこの1年、そこに向かって頑張りますので、どうぞよろしく願いいたします。



野菜研究所長 菊池昌彦

ニンニクのイモグサレセンチュウ被害診断等研修会

5月23日に、当研究所において各地域県民局の普及指導員を対象としたにニンニクのイモグサレセンチュウ被害診断研修が農産園芸課主催で開催され、26名の参加がありました。

ニンニクの病害虫被害について講義した後、イモグサレセンチュウのニンニク外皮への侵入を確認する方法について実習も含め研修を行いました。この方法は、現在まだ試験中ではありますが、現場でも検査できる方法としてはほぼ確立してきています。参加者からは、研修内容がわかりやすいと大変好評でした。



研修会での講演

ニンニク優良種苗生産指導研修会

病害虫の発生がなく、高品質なニンニクを生産するためには優良な種苗を生産するのが不可欠です。優良な種苗を生産するための研修会が5月29日、当研究所で農産園芸課が主催し開催されました。JA担当者、県民局普及指導員等の62名の参加者がありました。研修会は、まず屋外のニンニク作況圃場で、生育状況を確認しながら県の農林水産政策課担当者から生育状況と今後の管理、当所の病虫部から今後の収穫までの病害虫防除管理についての説明を行いました。今年のニンニクの生育は、春先から好天に恵まれたことから平年並みからやや早まっており、病害虫の発生は平年並みからやや少なくなっています。その後、屋内でりん片分化期とその後の気温から収穫時期を推定する方法、ニンニクの収穫後の乾燥のポイントについての講演を行い、活発な質疑がありました。



ニンニク作況圃場での説明

ニンニク種苗ウイルス感染調査開始

当研究所ではニンニクの優良種苗の生産・供給を行っています。当研究所で生産された種苗はニンニク生産のスタートとなる種苗で、この後、全農、JA、農家と順次渡りながら増殖されていきます。ウイルス等に感染していれば感染したまま増殖されることになり、病気を拡散させ同時に病害による被害が拡大してしまいます。そのため収穫直前に、種苗用として作付けしている1万3千株全株を対象にウイルス感染の有無を調査し、感染がないことを確認してから供給します。調査方法は、より正確に、早く判定するためにティッシュブロット法により行っています。ニンニクから1株毎に葉を採取して、その葉をウイルス検定用シートに押し付け、そのシートを試薬に浸けウイルス感染の有無を確認します。全株を調査するには2週間程度かかります。



温室内での葉の採取（5月22日）



ウイルス検定用のシート

いろいろな機械を使っての作業

当研究所では、作業を効率的に進めるため、多くの種類の作業機械・器具を使っています。場内の資材を活用し、技能技師の手作りした器具も有ります。5、6月に稼働したものを紹介します。左の写真は、技能技師の手作りのトラクタアタッチメント式種ナガイモ植え付け作業台です。中の写真は、ナガイモのネットを張るための支柱立て機、右の写真は畦立てを行う培土機でマルチを一緒にすることもできます。



ナガイモ植付け作業



ナガイモ支柱立て作業



培土作業

ナガイモ戦略推進協議会作業部会

ナガイモの増収・生産拡大を図るため、農産園芸課が主催で5月24日に、JA担当者・各地域県民局普及指導員等の28名が参加し、「青森県ながいも戦略推進協議会作業部会」が当研究所で行われました。各地域の本年度の取組状況、本年度の協議会の行事予定、「ながいもの達人」の認定スケジュール等の確認をしました。また、農産園芸課からは本県のナガイモ栽培における収量・品質の向上を図るため「ながいも栽培指導要領」の作成に向け、そのスケジュールと作成にあたっての協力依頼がありました。



ながいも戦略推進会議作業部会

○転出者(平成31年3月31日付)

職名	氏名	新所属
所長	西澤 登志樹	定年退職
研究管理監 品種開発部長事務取扱	今 満	農林総合研究所 研究管理監 花き・園芸部長事務取扱
主任研究員	今 智穂美	青森県農産園芸課 主査
研究員	加賀 友紀子	普通退職

○転入・昇任者(平成31年4月1日付)

職名	氏名	旧所属
所長	菊池 昌彦	下北地域県民局 地域農林水産部次長
研究管理監	須藤 充	農林総合研究所 藤坂稲作部長
品種開発部長	前嶋 敦夫	品種開発部 研究管理員
研究管理員	古川 尊仁	上北地域県民局農林水産部 主幹
主査	中川原 廣守	野菜研究所 主事
主任研究専門員	庭田 英子	農林総合研究所 藤坂稲作部 主任研究専門員
技能技師	坂本 保	農林総合研究所 藤坂稲作部 技能技師
技能技師	小川 純也	農林総合研究所 藤坂稲作部 技能技師

地方独立行政法人 青森県産業技術センター 野菜研究所

〒033-0071 青森県上北郡六戸町大字犬落瀬字柳沢91 0176-53-7171